

わくわく中部

中部教育局社会教育担当より
令和7年2月1日発行



写真:アジサイの冬芽(琴浦町逢東)

2月の主な行事予定

1月14日(火)~2月20日(木) 社会教育主事講習

(倉吉体育文化会館)

ちゅうぶくんが行く!

中部のヒト・モノ・コトを訪ねて



北谷コミュニティセンター (倉吉市)



大寒とはいえ10度越えの穏やかな日に、北谷コミュニティセンターに行ってきました。

この日は、久米小3年生の「こも豆腐づくり」。北谷食生活改善推進員の方々の指導の下、北谷地区の郷土料理「こも豆腐」を作りました。久米小3年生の皆さんは、7月からの大豆栽培に始まり、前日には大豆から豆腐づくりをしました。皆さんが作った豆腐は、固めのいい豆腐でした。

わらに豆腐を乗せて、野菜をはさみ、塩でのりづけしていきます。わらをギュッとしばるのは力のいる作業でしたが、教えてもらいながら、協力してできました。

子どもたちの元気、地域の方の一生懸命さ、大鍋の蒸気と、熱気ムンムンで、元気をたくさんもらえた訪問となりました。



豆腐にニンジン・ゴボウをはさみ、わらで包みます



わらをギュッとしばって大鍋で15分間煮ます



「こも豆腐」完成!
わらのいい香り



自分で作った「こも豆腐」は、家族へのお土産!

地域の伝統的な料理を材料の大豆作りから体験!

子どもたちにとっては一生モノの貴重な経験になったと思います。

このような経験の積み重ねがふるさとを思う気持ちにつながりますね!





ワークショップでの約束(例)

尊重

参加

守秘

ワークショップとは、本来は「作業場」「仕事場」を意味する言葉ですが、参加者の主体性を重視した体験型の講座、グループ学習、研究集会などを指す言葉として浸透しています。

ワークショップでは通常、ファシリテーター(進行役)の進行のもと与えられた課題やテーマに対して複数人からなるグループで話し合いをしたり、共同作業を行います。セミナーが専門家や有識者の話を聞くことが中心になることに対して、ワークショップでは参加者同士で双方向のコミュニケーションを取りながら課題解決を行います。参加者が主体的に取り組むため、当事者意識や達成感を感じやすいという特徴があります。

まとめ

ワークショップとは、
・参加者が主体的に参加する体験型の講座のことです。

ちゅうぶくん
~仕返しの仕返し!~

とっとり子育て親育ちプログラム 1月21日(火) 北栄町子育て支援センター

とっとり子育て親育ちプログラムのワークショップが、乳幼児の保護者を対象に行われました。鳥取県教育委員会社会教育課が派遣したファシリテーターが進行役で「子どもが育つステキな言葉」をテーマに、小グループで子どもとの関わりについて考えました。

牛乳をコップに注ぐとき絶対自分がやると言って、大量にこぼした子どもに、どんな声かけをするのか、望ましい対応をするためには、何をすれば良いか等、事例をもとに意見交換をしました。

初めて話をする保護者同士が多い様子で、最初は緊張感もありましたが、グループでアイデアを出し合って話し合ううちに和やかな雰囲気となり、子育てを振り返り、家庭教育について考える良いきっかけになりました。

「とっとり子育て親育ちプログラム」は改訂版を作成中です。メディア機器との関わり等も含め、時代に即したプログラムとなります。保護者同士が楽しみながら家庭教育について考え、学び合える取組に役立ちます。ぜひ、ご活用ください。



【あとがき】「コマ回し名人になった気分」
毎週火曜日昼休憩に行われている、成徳コミュニティセンター事業「学校へ行こう!」の会場、打吹小学校へ行きました。館長さんと地域の方が、囲碁・将棋・オセロ・コマ回しなどの準備をされ、昼休憩になるとたくさんの子どもたちが!

コマ回しでもしよかなとコマを持って立っていたら、コマ回し好きの3年生が「勝負しよう!」と私のもとへ。その後、約30分間「土俵で長く回せた方が勝ち」「手のひらの上で回せたら勝ち」など言われるがまさに様々なルールで、何度もコマ回し勝負。

小学3年生を相手に、手を抜かなかった私は、あらゆるコマ回し勝負に勝ち、名人になった気分でした! 大人げない?



地域の方の、定期的で継続的な関わりが、子どもたちにとって居心地の良い場所づくりにつながっていると感じました。地域と学校で子どもたちを育てていくために、持続可能な取組を少しずつ積み重ねていくことが大切ですね。

